

1. 事業予定計画書

平成31年度 事業予定計画

(1) 共済目的の種類別・引受実績及び計画

区 分		区域内の概数	前年度引受実績	本年度引受計画	本年度引受 予定率	
農家数又は組合員数		戸 9,210	戸 7,459	戸 7,360	% 79.9	
農作物共済	水 稲	^a 2,489,750	^a 2,454,770	^a 2,069,200	% 83.1	
	麦	1,413,700	1,392,757	1,363,800	96.5	
家畜共済	死亡廃用	搾 乳 牛	頭 32,098	頭 37,525	% 116.9	
		繁 殖 用 雌 牛	27,657	22,858	82.6	
		育 成 乳 牛 (子牛等)	22,407 (5,084)	31,768 (6,646)	141.8	
		育 成・肥 育 牛 (子牛等)	49,661 (10,470)	68,601 (23,114)	138.1	
		繁 殖 用 雌 馬	10,406	7,465	71.7	
		育 成・肥 育 馬	10,734	11,241	104.7	
		種 豚	26,667	1,962	7.4	
		肉 豚	198,489	26,186	13.2	
		種 雄 牛	26	21	80.8	
		種 雄 馬	219	113	51.6	
	疾病傷害	乳 用 牛	54,505	47,629	87.4	
		肉 用 牛	77,318	48,727	63.0	
		一 般 馬	21,140	12,119	57.3	
		種 豚	26,667	437	1.6	
		種 雄 牛	26	21	80.8	
		種 雄 馬	219	113	51.6	
	旧制度 (追加増額)	一 般 馬		3,070		
	合 計		558,239	204,179	319,856	
	果樹共済	り ん ご	^a 24,680	^a 10,216	^a 8,558	% 34.7
	畑作物共済	ば れ い し ょ	^a 596,564	^a 306,474	^a 280,860	% 47.1
大 豆		817,400	662,106	599,520	73.3	
小 豆		335,743	202,553	190,130	56.6	
い ん げ ん		10,598	2,513	2,700	25.5	
て ん 菜		450,591	318,050	304,980	67.7	
ス イ ー ト コ ー ン		133,576	61,867	58,750	44.0	
た ま ね ぎ		36,792	17,522	14,690	39.9	
か ぼ ち ゃ		169,190	79,415	72,310	42.7	
そ ば	201,767	124,102	98,120	48.6		
園芸施設共済	ガラス室	I 類	棟 0	棟 0	棟 0	% 0.0
		II 類	6	1	1	16.7
	プラスチックハウス	I 類	0	0	0	0.0
		II 類	41,525	35,103	24,900	60.0
		III 類	12	13	8	66.7
		IV類(甲)	227	201	142	62.6
		IV類(乙)	16	34	16	100.0
		V 類	78	61	57	73.1
VI 類	690	454	400	58.0		

(注)家畜共済 平成30年度4月から3月における制度改正前の引受頭数は、乳牛の雌等 89,457頭、肉用牛等 75,712頭、一般馬 16,094頭、種豚 1,861頭、肉豚 20,974頭、種雄牛 23頭、種雄馬 58頭。計 204,179頭。

(2) 農業共済事業の規模

ア 農作物・家畜・果樹・畑作物・園芸施設事業の規模

共済目的区分		項目		引	受	共済金額	保険金額	共済掛金			納入 保険料	交付金	手持掛金		
		本年度予定						前年度実績		総額				国庫負担	農家負担
		千円	千円					千円	千円						
水	稲	全相殺	31年産	1,284,630	1,524,005.2	11,297,254	111,125,536	323,666	161,833	161,833	103,539	0	58,294		
		半相殺	31年産	758,693	900,066.0	5,402,398	5,320,676	111,644	55,822	55,822	54,475	0	1,347		
		筆品質	31年産	25,877	30,698.9	112,621	111,331	1,532	766	766	440	0	325		
		インデックス	31年産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	農作物	麦	全相殺	31年産(春播)	102,800	111,730.0	397,354	346,493	58,331	31,499	26,832	8,373	0	18,459	
			全相殺	31年産(二条)	3,500	3,584.0	10,063	9,194	996	533	463	148	0	315	
			全相殺	32年産(秋播)	211,200	211,351.0	1,183,955	1,097,763	99,144	52,745	46,399	15,020	0	31,380	
			災害収入	31年産(春播)	333,000	351,363.0	1,917,347	1,736,349	176,568	94,287	82,281	16,155	0	66,125	
		災害収入	31年産(二条)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		災害収入	32年産(秋播)	713,300	714,598.0	4,748,911	4,323,408	415,482	221,452	194,030	38,418	0	155,612		
半相殺		31年産(春播)	0	131.0	0	0	0	0	0	0	0	0			
半相殺		31年産(二条)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
半相殺		32年産(秋播)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
インデックス		31年産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
農作物計		3,433,000	3,847,527	25,069,903	124,070,750	1,187,363	618,937	568,426	236,568	0	331,857				
家畜	死亡廃用	搾乳牛	37,525	8,015,136	6,412,108	409,872	204,936	204,936	122,977	0	81,959				
		繁殖用雌牛	22,858	5,218,257	4,174,605	88,065	45,877	42,188	24,584	0	17,601				
		育成乳牛(子牛等)	(6,646)	6,696,045	5,356,836	108,514	54,257	54,257	32,567	0	21,690				
		育成・肥育牛(子牛等)	(31,768)	11,456,319	9,165,055	240,619	111,011	129,608	81,505	0	48,103				
		繁殖用雌馬	(23,114)	8,161,772	6,529,417	150,749	75,292	75,457	45,323	0	30,134				
		育成・肥育馬	(68,601)	15,889,925	12,711,940	212,836	106,398	106,438	63,903	0	42,535				
		種豚	1,962	123,674	98,939	4,253	1,701	2,552	1,701	0	851				
		肉豚	26,186	299,112	239,289	16,102	6,444	9,666	6,445	0	3,221				
		種雄牛	21	14,212	11,369	770	385	385	231	0	154				
		種雄馬	113	77,997	62,397	8,806	4,403	4,403	2,642	0	1,761				
	疾病傷害	乳用牛	47,629	1,235,926	988,740	654,148	327,074	327,074	0	142,612	469,686				
		肉用牛	48,727	850,420	680,336	339,536	169,768	169,768	83,735	86,033	198,364				
		一般馬	12,119	204,779	163,823	124,968	62,484	62,484	0	33,914	96,398				
		種豚	437	2,369	1,895	150	60	90	0	24	114				
		種雄牛	21	828	662	67	34	33	0	16	49				
		種雄馬	113	2,653	2,122	640	320	320	0	136	456				
旧制度	一般馬	3,070	4,793,020	3,834,416	53,720	16,269	37,451	18,585	0	18,866					
家畜計		319,856	204,179	63,042,444	50,433,949	2,413,815	1,186,713	1,227,110	484,198	262,735	1,031,942				
果樹	りんご	総合	0	23.3	0	0	0	0	0	0	0				
		特定危険	8,570	10,192.6	186,932	180,710	10,083	5,041	5,041	4,438	0	603			
		樹体	18	989	955	17	8	9	5	0	4				
		インデックス	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	果樹計		8,588	10,216	187,921	181,665	10,100	5,049	5,050	4,443	0	607			

共済目的区分		項 目		共済金額	保険金額	共 済 掛 金			納 入 保険料	交付金	手 持 掛 金	
		本年度予定	前年度実績			総 額	国庫負担	農家負担				
畑 作 物	ばれい しよ	全相殺	280,860	306,474	3,001,447	2,401,158	169,441	93,192	76,249	42,360	0	33,889
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	大豆	全相殺	584,332	637,185	3,498,059	2,798,447	304,788	167,633	137,155	76,197	0	60,958
		半相殺	15,188	24,921	52,133	41,707	1,960	1,078	882	490	0	392
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	小豆	全相殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		半相殺	190,130	202,553	803,547	642,838	35,999	19,799	16,200	9,000	0	7,200
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	いんげん	全相殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		半相殺	2,700	2,513	13,665	10,932	1,256	691	565	314	0	251
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	てん菜	全相殺	304,980	318,050	2,608,512	2,086,810	176,857	97,271	79,586	44,214	0	35,372
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	スイート コーン	全相殺	58,750	61,867	249,255	199,404	18,869	10,378	8,491	4,717	0	3,774
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	たまねぎ	全相殺	14,690	17,522	247,085	197,668	20,557	11,307	9,250	5,139	0	4,111
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	かぼちや	全相殺	72,310	79,415	552,692	442,154	61,073	33,590	27,483	15,268	0	12,215
		インデックス	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	そば	全相殺	98,120	124,102	281,492	225,193	29,782	16,380	13,402	7,445	0	5,957
インデックス		0		0	0	0	0	0	0	0	0	
畑作物 計		1,622,060	1,774,601	11,307,887	9,046,311	820,582	451,319	369,263	205,144	0	164,119	
園 芸 施 設	ガラ ス 室	I 類	棟 0	棟 0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II 類	1	1	2,059	2	1	1	1	0	0	0
	プ ラ ス チ ン ク ハ ウ ス	I 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		II 類	24,900	35,103	12,287,589	98,300,272	159,149	78,963	80,186	48,373	0	31,813
		III 類	8	13	2,543	2,035	27	13	14	8	0	6
		IV類(甲)	142	201	250,242	200,194	1,885	938	947	570	0	377
		IV類(乙)	16	34	44,293	35,434	135	68	67	41	0	26
		V 類	57	61	197,470	157,976	240	103	137	86	0	51
	VI 類	400	454	289,423	231,538	2,835	1,399	1,436	866	0	570	
	園芸施設 計		25,524	35,867	13,073,619	98,927,451	164,272	81,485	82,788	49,944		32,843

(注)家畜共済 平成30年度4月から3月における制度改正前の引受頭数は、乳牛の雌等 89,457頭、肉用牛等 75,712頭、一般馬 16,094頭、種豚 1,861頭、肉豚 20,974頭、種雄牛 23頭、種雄馬 58頭。計 204,179頭。

(3) 農業保険（農業共済及び収入保険）の推進方策

農業保険の推進については、市町村・J A・農業委員会・地域農業再生協議会等の関係機関の協力を得て、個々の農業者のニーズに応じた制度保険（農業共済及び収入保険）を選択していただくよう普及・推進して参ります。

また、農業者のニーズに応じた事業の実施を検討するため、当管内で未実施品目の事業や引受方式について、ニーズ調査を実施し検討いたします。

(4) 農作物共済の引受推進方策

平成 31 年産から任意加入制になり、畑作物共済と同様に加入の申し込みが必要となることから、農業者リストによる有資格者の把握と改正された内容の説明を行い推進して参ります。

1) 引受方式並びに補償割合の選択について

- ① 水稲は、品質方式、全相殺方式、半相殺方式及び一筆方式の他、新たに地域インデックス方式が追加され更に一筆半損特約の選択及び補償割合についても、3つの中で選択可能となります。
- ② 麦は、全相殺方式、災害収入方式、半相殺方式、地域インデックス方式のいずれかを選択して頂きます。また、一筆半損特約の選択及び補償割合についても、選択可能となります。

(5) 家畜共済の引受推進方策

平成 31 年 1 月より引受が始まりました新家畜共済は、「死亡廃用共済」「疾病傷害共済」が分離され、家畜の加入区分を細分化するなど補償の選択肢が増えていきます。また、加入者間の公平性を確保するため、新たに危険段階別掛金率が導入されております。

新家畜共済制度の理解を深めていただくため、個別に丁寧な説明をし、収入保険と併せて加入推進に努めて参ります。

1) 引受規模

引受計画に基づき推進して参ります。

2) 掛金率

平成 31 年度 危険段階別掛金率設定（21 段階）は平成 20 年～29 年までの 10 ヶ年の損害率に基づき、すべての家畜区分で設定し、給付と負担の公平を図ります。

3) 個体評価について

家畜共済事務取扱要領に基づき、過去 1 年間の市場成績等を基に北海道 N O S A I から示された全道統一基準の評価額を使用します。

4) 診療費に 1 割の自己負担を導入（令和 2 年 1 月引受分から）

旧制度の病傷共済では初診料は自己負担となっておりますが、更なる事故低減に向けて、令和 2 年 1 月から人の健康保険と同様に初診料を含めた診療費全体に一定の自己負担を設けることとなりました。自己負担割合は診療費の 1 割となります。

(6) 果樹共済の引受推進方策

果樹（りんご）栽培状況について、関係機関等の協力を基に有資格農家を把握し、継続引受の確保に最重点をおくとともに、未加入者への積極的な推進による引受拡大に努めて参ります。

また、農家ニーズに対応した半相殺減収総合方式と樹体共済制度の普及に努め、さらに樹体共済と収入保険のセット加入を勧めて参ります。

(7) 畑作物共済の引受推進方策

畑作加入対象作物（ばれいしょ・大豆・小豆・いんげん・てん菜・スイートコーン・たまねぎ・かぼちゃ・そば）について、制度改正によりそれぞれに地域インデックス方式の追加、小豆・いんげんに全相殺方式が導入され補償割合についても、3つの中で選択可能となります。農業者リストによる有資格者の把握と改正された内容の説明を行い、基幹組合員、関係機関の協力を得ながら引受拡大に努めて参ります。

(8) 園芸施設共済の引受推進方策

有資格者及び棟数を的確に把握し、継続引受の確保及び未加入者への積極的な加入推進による引受拡大に努めます。また、平成31年1月1日から適用となる改正制度の普及を図るとともに、国が設定した「災害に強い施設園芸づくり月間」においては、関係機関の協力のもと積雪や台風による被害防止に向けた技術指導及び災害への備えとしての園芸施設共済の加入促進に努めます。

また、補償機能の拡充を期すため、特定園芸施設と施設内農作物とのセットもしくは、収入保険のセット加入に加え、復旧費用及び撤去費用の引受も積極的に推進します。

(9) 損害防止事業および診療所の付帯事業の実施計画

ア. 農作物・畑作物・果樹及び園芸施設共済

実施種目	支所	実施期間	対象面積(ha)	重点事項	経費の概算 (千円)
損害防止用農業機械貸付事業	石狩支所	随時	240.2	病虫害防除対策等 園芸施設除雪対策	6,086
	後志支所		100.6		2,801
	道南支所		850.4		16,423
	いぶり支所		0.4		364
	日高支所		30.4		1,004
合計			1,222.0		26,678

イ. 家畜共済

実施種目	支所	実施期間	対象頭数 (頭)	重点事項	経費の概算 (千円)
特定損害防止事業	石狩支所	4月～1月	4,540	繁殖障害・乳房炎・ 周産期疾病等	14,033
	後志支所		2,350		7,363
	道南支所		7,971		23,810
	いぶり支所		2,835		8,731
	日高支所		2,912		8,300
合計			20,608		62,237

実施種目	支所	実施期間	対象頭数 (頭)	重点事項	経費の概算 (千円)
一般損害防止事業	石狩支所	4月～3月	随時	①繁殖障害・乳房炎・ 周産期疾病・幼畜多発 疾患予防 ②伝染病まん延防止 ③集団検診・衛生管理 指導	14,824
	後志支所				4,719
	道南支所				17,495
	いぶり支所				18,784
	日高支所				12,485
合計					68,307

ウ. 診療所の付帯事業

実施種目	支所	実施期間	対象頭数 (頭)	重点事項	経費の概算 (千円)
人工授精事業	石狩支所	4月～3月	8,750	繁殖成績の向上	97,158
	後志支所		10,380		77,206
	道南支所		31,250		237,730
	いぶり支所		9,380		143,662
	日高支所		22,120		261,156
合計			81,880		816,912

実施種目	支所	実施期間	対象頭数 (頭)	重点事項	経費の概算 (千円)
その他の事業	石狩支所	4月～3月	随時	牧野衛生・自衛防疫 関係等	1,895
	後志支所				2,927
	道南支所				4,178
	いぶり支所				8,905
	日高支所				11,437
合計					29,342

(10) 損害の評価

ア. 損害評価の適正化方策

被害概況調査を適宜実施し、損害評価要綱及び事務取扱要領等に基づき適正・公平な損害評価に努めて参ります。

イ. 損害評価会の運営方策

損害評価会運営規則、損害評価要綱に基づき適正公正な損害評価の認定に努めて参ります。

ウ. 地区損害評価員の運用方策

地区内の損害評価がより一層適正な評価となるよう、作柄状況等の把握及び適正評価に努めて参ります。

エ. 損害評価員の運用方策

調査地区内の被害状況等を的確に把握し、本実測による悉皆調査に当り公平・適正な調査に努めて参ります。

(11) 総代会の開催

通常総代会 定款第18条（理事の総代会の招集）に基づき開催致します。
（毎事業年度1回、5月）

臨時総代会 必要に応じ開催して参ります。

(12) 理事会・監事会の開催

ア. 理事会の運営方策

総代会議決事項を遵守し、事業計画に基づく適正運営と事業推進を行うため、理事会運営規則に基づき適切な運営を致します。また、事業及び業務を円滑に推進し、組合の運営についてより積極的に効率化を図って参ります。

イ. 理事会・監事会の開催計画

理事会 理事会運営規則に基づき開催致します。

監事会 監事監査規則に基づき開催致します。

ウ. 関係団体との協力関係

地域農政と連携した農業振興に参画し、地域の関係機関、団体と協議して農業共済事業の円滑な推進を図って参ります。

(13) 監査の実施計画と重点事項

定時監査 監事監査規則に基づき総代会議決事項の遵守、法令定款に基づく適正執行、財務管理状況を重点に中間監査と決算監査を実施して参ります。

臨時監査 必要に応じ随時実施して参ります。

(14) 執行体制の整備

ア. 業務執行体制の整備

事業計画の適正実施と効率的な事務処理を図るため、法令、定款・事業規程並びに諸規則を遵守し、事業の多様化に備えた責任体制の確立と制度の専門的知識の向上を図るため、積極的に各種研修・講習会に参加し職員の資質向上と共に活力ある職員体制を採って参ります。

イ. 内部監査室の設置

独立した内部監査部署を設置し、コンプライアンス態勢の確立とリスク管理態勢の適切性・有効性を主要な視点として内部監査を実施するとともに、監事による監査と連携した体制を採って参ります。

ウ. コンプライアンス態勢等の確立

コンプライアンス規則に基づく法令並びに社会的倫理規範の遵守のため、役職員のコンプライアンスの意識の高揚を図り、不祥事件の未然防止並びに不祥事件が発生した際の対応と係る事案の再発防止に努め、役職員に対するコンプライアンスに関する研修会を開催するとともに、内部検証を実施して参ります。

また、公益通報の処理に関する規則に基づき、法令等違反行為等に関する相談または通報の適正な処理に努めます。

エ. リスク管理態勢の確立

リスク管理基本方針に基づき、事業運営に係る管理対象リスクを総合的に管理し、適切なリスク管理態勢の構築と実践を図ることとし、監事監査及び内部監査により各種リスク管理態勢の遵守状況について内部検証を実施して参ります。

オ. NOSAI 部長の設置及び職務

各地域の組合員と組合の実践機関として、共済事業の推進、損害通知の受理、その他日常組合業務の連絡協調を図り事業運営を円滑に進めて参ります。

カ. 家畜診療所の運営方策

組合員に信頼される診療所として、家畜の診療のみならず事故の未然防止を図るため関係機関との連携を密にし、診療体制の強化及び損害防止事業の実施により、農家の生産性向上にも寄与できる総合的な地域獣医療の提供をめざして参ります。

キ. 職制および職員の配置計画

職制規則に基づき、事務分掌及び事務処理体制と内部牽制組織を確立し、かつ相互協力体制をとりながら事業の円滑処理に万全を期して行きます。

(15) 普及宣伝の実施

NOSAI 制度及び収入保険の普及啓蒙並びに組合員との信頼される NOSAI を確かなものにするため「農業共済新聞」の購読推進と「組合広報誌」を年4回発行、更にホームページの活用と充実を図り、組合の事業内容等を知らせるとともに身近な話題を提供して参ります。

(16) 予算統制の方策

国庫事務費負担金の予算縮減により、各部・支所及び診療所毎に事業計画の重点事項を中心に予算措置を行い、予算執行にあたっては、それぞれの責任と合議制のもとに予算統制を行い、予算の効率的な執行に努めます。

(17) 固定資産の更新・取得計画

平成31年度に下記のとおり計画します。

固定資産名	金額	備考
宿泊棟取得	42,500千円以内	家畜高度医療センター1棟
いぶり支所西部事業所取得	40,000千円以内	いぶり支所
ドローン取得	2,658千円以内	全支所
車庫取得	2,372千円以内	後志、道南支所
医療器具機械9台	14,700千円以内	石狩支所 2台・後志支所 1台 道南支所 1台・日高支所 5台

(18) 各種講習・研修会

種別	対象者	実施月日	摘要
総務関係 コンプライアンス研修会 農業共済制度説明会 安全運転講習会	役職員等 基幹組合員・関係機関 職員	随時	
農作関係 転作(冬損)現地研修会 作柄概況調査 果樹共済現地研修会	損害評価員等 損害評価員等 損害評価員・職員等	随時	
家畜関係 獣医師教育プログラムによる研修 診療技術講習会 酪農講習会・研修会	診療所技術職員 診療所技術職員 家畜関係組合員	随時	

(19) 一県一組合化の取組み

北海道における特定組合化協議において、令和4年4月を特定組合化の目標年度とし、推進委員会に移行して協議を進めて参ります。

事業計画書付属資料

農作物・果樹・畑作物・園芸施設共済の地区別引受計画

支所名	区分	水 稲		麦		果 樹		畑 作 物		園 芸 施 設	
		戸 数	面 積	戸 数	面 積	戸 数	面 積	戸 数	面 積	戸 数	棟 数
石 狩	31年	874	695,470	895	897,645			625	478,460	755	4,745
	前年	926	738,675	927	913,402			637	497,770	764	8,069
後 志	31年	573	288,187	314	150,348	53	7,866	350	439,900	682	6,650
	前年	726	505,543	364	172,954	62	9,395	422	486,956	627	9,089
道 南	31年	1,152	624,914	130	112,899	5	722	390	374,500	844	9,310
	前年	1,215	701,752	141	124,426	6	821	497	422,610	850	12,957
いぶり	31年	602	343,663	326	201,260			319	317,400	212	1,807
	前年	643	376,111	342	202,977			339	355,436	236	2,276
日 高	31年	277	116,966	4	1,648			10	11,800	224	3,012
	前年	295	132,690	9	5,299			10	11,829	225	3,476
合計	31年	3,478	2,069,200	1,669	1,363,800	58	8,588	1,694	1,622,060	2,717	25,524
	前年	3,805	2,454,771	1,783	1,419,058	68	10,216	1,905	1,774,601	2,702	35,867

家畜共済の地区別引受計画

(単位：頭)

支所名	区分	搾乳牛	繁殖用雌牛	育成乳牛 (子牛等含む)	育成・肥育牛 (子牛等含む)	繁殖用雌馬	育成・肥育馬	種 豚	肉 豚	種雄牛・馬	計
石 狩	有資格頭数A	6,749	1,548	4,550	1,659	794	61	2,423	23,690	5	41,479
	引受計画B	7,102	1,095	5,852	6,328	72	58	1,125	12,500	4	34,136
	前年度実績C										32,298
後 志	有資格頭数A	3,339	832	1,746	640	18	12	3,090	31,805	3	41,485
	引受計画B	3,850	800	2,915	2,712	23	8	44	4,315	3	14,670
	前年度実績C										10,749
道 南	有資格頭数A	11,470	3,664	9,076	23,365	343	257	13,246	101,382	33	162,836
	引受計画B	14,817	4,072	14,137	22,422	388	226	316	6,500	42	62,920
	前年度実績C										62,808
いぶり	有資格頭数A	4,696	13,289	3,326	14,648	1,093	2,566	7,644	33,380	54	80,696
	引受計画B	4,830	7,630	3,882	16,560	240	290	450	2,300	3	36,185
	前年度実績C										39,325
日 高	有資格頭数A	5,844	8,324	3,709	9,349	8,158	7,838	264	8,232	150	51,868
	引受計画B	6,926	9,261	4,982	20,579	6,742	10,659	27	571	82	59,829
	前年度実績C										58,999
合 計	有資格頭数A	32,098	27,657	22,407	49,661	10,406	10,734	26,667	198,489	245	378,364
	引受計画B	37,525	22,858	31,768	68,601	7,465	11,241	1,962	26,186	134	207,740
	前年度実績C										204,179
平均共済金額		千円 139	千円 181	千円 131	千円 143	千円 1,154	千円 1,437	千円 68	千円 11	千円 688	

(注)家畜共済 平成30年度4月から3月における制度改正前の引受頭数は、乳牛の雌等 89,457頭、肉用牛等 75,712頭、一般馬 16,094頭、種豚 1,861頭、肉豚 20,974頭、種雄牛 23頭、種雄馬 58頭。計 204,179頭。